

就職活動を終えて2

アジア文化学科4年 辻 有里子

私にとって就職活動はこれまでの人生の中で一番自分と向き合った貴重な時間となりました。自分がどんな仕事でどんな人生を歩みたいのか、それを考え始めたのが大学1年の頃でした。航空業界に就きたい!! …その思いをずっと抱きながら大学生活を過ごしてきました。英語は世界共通語で航空業界では、できて当たり前だと伺っていたので、私は英語とは別にプラスαで中国語に目を向けました。アジア文化学科では、中国語を学ぶ環境がとても整っており、学ぶにつれ生の中国語に触れ、話せるようになりたいという思いへと変わり、大学3年時に北京語言大学への留学を決意しました。

中国で学んだことは沢山あります。その中でも一番心を打たれたのが、中国の貧富の格差を目の当たりにしたことでした。首都北京でも一歩外に足を運ぶと貧しい家々があり、そこで働く人々や子供達の姿を見ると胸が痛くなりました。それと同時に、自分の存在そして自分がどんなに恵まれた環境で育ち裕福な生活を送っているのか、自分の悩みがちっぽけに感じ、幸せボケになっている自分に腹立たしく、今ある現実感謝の気持ちでいっぱいになりました。また私達の寮を掃除してくださったのは、北京から遠く離れた故郷から働きに来ていた私達と同年代の子達でした。彼女達との会話の中で、将来の話になり、どんな仕事に就きたいのかと伺うと、お金を沢山稼げる仕事に就いて、両親を楽にさせたいという子達ばかりでした。中学・高校卒業後に北京へ来ている子達ばかりだった為、仕事の選択が厳しいのが現実でした。しかし、彼女達の目はいつもきらきらしていて、沢山のパワーをいただきました。そして、私は職業を選ぶ自由があること、それを選び実現させる環境が整っていることへの感謝の気持ちが湧き上がってきました。

この留学を機に、私は考え方が一転したように思います。これまで当たり前だ感じていたことが当たり前ではないと身にしみて感じさせられ、この経験が私の就職活動、そしてこれからの人生に大いにプラスになったと感じています。就職活動ができること、自分が就きたいと思う職業にチャレンジできることへの感謝の気持ち、その気持ちを持ち続けてこられたことが、今回の内定へと繋がったと強く感じています。

就職活動中、会社に自分の思いが伝わらず、挫けそうになったり、悲観的になる時もあるかもしれませんが、常に友人や家族、先生方の支えがあることを忘れないでください。就職活動は決して自分一人では乗り越えられるものではありません。側で支え応援して下さる人々がいること、そして感謝の気持ちを忘れずに、存分にあなたをアピールしてきて下さい。きっとあなたを待っている会社があるはずです。挫けそうになったら「最後のライバルは自分」を思い出してみてくださいね。卒業生の一人として応援しています。